

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

< C U E > 利用教育委員会通信 第 65 号 (18 巻 1 号) 2007. 5. 16 発行

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第 10 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせ
- (2) 第 9 回図書館利用教育実践セミナーの報告
- (3) 観光情報リテラシー
- (4) 図書館利用教育文献一覧 (2006 年 11 月～2007 年 4 月発行分)
- (5) 編集後記
- (6) 利用教育委員会委員

-
- (1) 第 10 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせ

●2007 年 7 月 13 日 (金) 19:00-21:00

情報を批判的に読み解くには一司書に求められる情報評価能力を考えるー

講師：有吉未充 (図書館利用教育委員会委員，京都学園大学)

内容・情報メディアが多様化した現代，私たちは多種多様な情報を大量に手に入れることが可能になりました。しかし，その情報を私たちは

どれほど有効に活用できているでしょうか？情報を活用していく上でまず必要になるのは、その情報の重要性、信憑性を評価する作業ですが、はたして「情報の評価」の重要性はどれほど意識されているのでしょうか。先般の関西テレビのねつ造事件が社会に引き起こした波紋の大きさは、逆にいかに多くの人々がメディアの伝える情報を無批判に信じていたかをあぶり出して見せました。真の意味での情報リテラシーの習得のためには、情報を評価する能力が必要です。これから情報リテラシー習得支援を行おうとする司書には、当然「情報の達人」たるにふさわしい情報の批判的読み取り能力が求められます。今回のセミナーでは、様々なメディアが伝える情報の特性を検討しながら、これからの司書に必要な情報を評価する能力とはどのようなものかを考えていきます。なお、学術論文の評価やデータベースの評価については今回は取り上げません。

■会 場：日本図書館協会 2 階研修室

■対象者：図書館職員，教職員，JLA 会員，図書館関係団体，他

■主 催：日本図書館協会

■参加費：会員 500 円／非会員 1000 円

■申 込：電子メールで下記の内容を日本図書館協会事務局まで。

送信先：cue@jla.or.jp

■定 員：120 名，先着順受付。

■締 切：7 月 6 日（金）

■詳 細：利用教育委員会ホームページ <http://www.jla.or.jp/cue/>

●申込書

《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：第 10 回

[2007 年 7 月 13 日（金）]

■申込日：

■氏名（氏名ヨミ）：

■JLA 会員／非会員（会員の場合は会員番号：_____）

■所属：

■住所：

■電話番号：

■電子メール：

※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、

今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表することはありません。

(2) 第9回図書館利用教育実践セミナーの報告

情報リテラシー教育をめぐる最近の論点について2名の講師が講演
—今年も現場で役立つ内容と好評！—

当委員会は、2007年3月10日、昨年に引続きキャンパスプラザ京都において、実践セミナーを開催しました。今回は国内外の事例から実践のヒントを探るべく、情報リテラシー教育をめぐる最近の論点について2人の講師を迎えました。

まずは野末俊比古氏（青山学院大学）が「情報リテラシー教育をめぐる研究・政策・実践の動向：『指導サービス』レベルアップのための企画・運営を考える」というテーマで、情報リテラシーの今日的意義や情報教育の現状、また、これらに図書館がどう関わってきたかについて資料をふんだんに示しての講演を行いました。

続いて、長澤多代氏（長崎大学）が「大学図書館が実施する情報リテラシー教育と図書館員に求められる専門的能力：米国の事例を中心に」というテーマで、米国のアラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援の現状、情報リテラシー教育を担当する図書館員に求められる専門能力について講演しました。

セミナーには、関西の多数の大学を中心に各館種の図書館員や教員など95名が参加しました。アンケートでは、野末氏講演には「情報リテラシー教育に関わる様々な課題などが概観できてよかった」「情報リテラシーの研究・政策などの経緯と今後の方向がわかった」など、長澤氏講演には「アメリカの大学が実施するプログラム事例を知り、より視野を広げることができた」「教員と協力した利用者支援の必要性を再確認できた」などの感想が寄せられました。

（木下みゆき／大阪府立女性総合センター）

(3) 観光情報リテラシー

高尾山が『ミシュラン』の三ツ星観光地になった

観光情報を収集するのに「観光ガイドブック」を活用するのは誰でも行うことであろう。しかし、日本の観光ガイドブックや旅行雑誌、旅行案内書には批判が多い。これは、編集方針と掲載広告に関係していると思われる。ここでは、編集方針のうち、ランキングという観点からの情報リテラシーに焦点をあてて、具体的に考えてみよう。

フランスの『ミシュラン』といえば観光地やレストランを星の数で格付けすることで有名である。そのミシュランが遂に日本の観光ガイドを出版した。2007年3月に発行されたのはフランス語版 (Michelin: Japon; Voyager pratique, 488p) だけで、11月には東京を対象としたレストランガイドを日本語と英語で発行する予定という。(朝日新聞 2007年4月26日 付け朝刊)

ミシュランでは星★の数で格付けしており、★よい、★★とてもよい、★★★最高となっている。そこで三ツ星に選ばれたのは、姫路城、京都、厳島神社、日光、富士山、奈良、東京などであるが、東京の他に「高尾山」が選ばれているのは驚きである。「大都市近郊にこれだけ自然豊かな山があるなんて、パリでは信じがたいのです」とガイドブックの取材をしたキャップは言う。(朝日、前掲)

高尾山への最短ルートである京王線の沿線に長く住み、初詣、夜間ハイク、春秋の自然散策と家族も含めて楽しんできた者にとっては、ようやく高尾山の良さが、世界に認められたと、大変喜んでいる。

しかし、個人的な感情からだけでなく、三ツ星にふさわしい山であることは客観的に保障できる。世俗的な表現を使えば「速い、安い、おいしい」の三拍子が揃っていることである。

まず「速い」は、京王線新宿駅から特急に乗れば、47分で高尾山口駅(高尾山の麓)に到着する。そこから山頂までは、徒歩でもケーブルカーでも観光リフトでも、自分に適した方法で行くことができる。

つぎに「安い」は、新宿から京王線で370円である。往復でも740円で

行ける。こんなに安く行ける観光地はほとんど無い。

そして観光地そのものの評価であるが、これが「おいしい」。空気がおいしい。自然がおいしい。上に引用した「自然豊かな山」である。行ってみれば誰にでも理解できる。

高速道路の圏央道が高尾山の北側の麓まで伸びて、まもなく開通するが、これが高尾山をどのように貫いて進むのか。その工法によっては、三ツ星から転落することも考えられるが、そのような事態にならないように見守りたい。

(戸田光昭／駿河台大学名誉教授)

(4) 図書館利用教育文献一覧 (2006年11月～2007年4月発行分)

・対象誌は次の通りです。

『医学図書館』 『学校図書館』 『看護と情報』 『出版ニュース』

『私立大学図書館協会会報』 『大学の図書館』 『大学図書館研究』

『短期大学図書館研究』 『図書館雑誌』 『病院図書館』 『薬学図書館』

『Library and information Science』

- ・この文献一覧の情報は、当委員会委員が現物により収集したものです。内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方はご連絡ください。
- ・収録対象期間には多少ずれがあります。
- ・上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。
- ・一部の文献には解題を付し、担当者の署名を末尾に記しました。
- ・書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等で示し、館種別にリストアップしました。
- ・◆は利用教育関連文献、◇は少し広く採録した参考文献です。

【大学図書館】

- ◆阿部信一「図書館利用者へのPubMed検索指導」『病院図書館』26(3), 2007.1, pp.105-112.
- ◆市古みどり, 上岡真紀子「情報リテラシーのためのウェブチュートリアル開発:KITIE(Keio Interactive Tutorial on Information Education)の事例」『医学図書館』54(1), 2007.3, pp.37-41.
[内容]

学部生への情報リテラシー教育への取り組みの一環として、慶應義塾大学で開発されたシステム（KITIE）の紹介である。その開発経緯と内容、利用状況の分析、さらに今後の課題に関して評価を交えながら述べられている。また図書館における情報リテラシーのためのチュートリアル作成への可能性に触れ、学生への情報リテラシー教育は教員や大学当局との連携が重要であるとしている。（K.W.）

- ◆上田直人〔ほか〕「特集：新入生を対象とした図書館利用教育」『大学の図書館』396, 2006. 11, pp. 178-184.
- ◆岡田信恵, 柿田憲広「藤田学園における看護学専攻学生に対する学年別図書館ガイダンスの実施」『医学図書館』54(1), 2007. 3, pp. 73-76.
[内容]
4年生の看護学科と3年生の看護専門学校の学年ごとのガイダンスや利用者教育について、内容を比較・分析している。（K.W.）
- ◆片山淳「利用教育，大学図書館の生命線」総会・研究大会記録 講演『私立大学図書館協会会報』127, 2007. 3, pp. 167-179.
- ◆小林靖明「画面キャプチャーソフトによる利用者教育用資料の作成：新しい形での利用者教育の可能性への模索」『医学図書館』54(1), 2007. 3, pp. 42-45.
[内容]
札幌医科大学で開発された、映像を利用した利用者教育の紹介である。(1)ビデオによる利用者教育用資料の制作，(2)テレビ会議システムを通じたガイダンスの実施，(3)ezsCAM2000（ソフトウェア）を使った利用者教育用資料の制作の概要を中心に，動画による利用者教育用資料の評価と課題が述べられている。（K.W.）
- ◆鈴木正紀「文教大学越谷図書館における新入生向け利用者教育」（特集 新入生を対象とした図書館利用教育）」『大学の図書館』25(11), 2006. 11, pp. 180-183.
- ◆諏訪敏幸「情報リテラシー教育はレファレンス・ワークをどのようにその一構成部分とするか—看護系院生・学生等を対象とした大阪大学生命科学図書館の経験から」『大学図書館研究』78, 2006. 12, pp. 65-75.
- ◆瀬戸口誠「情報リテラシー教育における関係論的アプローチの意義と限界：Christine S. Bruceの理論を中心に」『Library and information Science』56, 2006, pp. 1-21.
- ◆仁上幸治「『図書館の達人』から『情報の達人』へ—利用者教育映像

教材の進化 15 年の集大成」『図書館雑誌』101(4), 2007. 4, pp. 238-239.

- ◆増田徹「医中誌検索オリエンテーション」『病院図書館』26(3), 2007. 1, pp. 113-115.
- ◆峯環「アメリカの大学図書館における利用者サービスに学ぶ—イリノイ大学モーテンソン・センター国際図書館プログラムに参加して（小特集 図書館員の研修・スキルアップ）」『大学図書館研究』78, 2006. 12, pp. 40-52.
- ◆毛利和弘「ステップアップレファレンスを実現する図書館利用教育」『短期大学図書館研究』26, 2007. 3, pp. 1-8.

[内容]

図書館利用教育の実施によって、図書館利用者の自立が高まり、個別対応のレファレンスサービス時の質問内容がレベルアップするという現象を、ステップアップレファレンスと捉え、図書館利用教育の必要性についてレファレンス理論を踏まえながら論述。(K. M.)

- ◆横山道子（他著）「関西看護専門学校図書室における図書館利用教育の計画・実施・評価の試み」『看護と情報』14, 2007. 3, pp. 85-93.

[内容]

学生と教員への利用教育計画案を中心に述べられている。対象者別に目標・方法・評価を設定するにあたっては『図書館利用教育ガイドライン；大学図書館版』を参考に行っている。(K. W.)

【学校図書館】

- ◆「コピーしてすぐ使えるワークシート：1月」『学校図書館』no. 675, 2007. 1, pp. 52-55.
[内容]
授業で配布して使うことができるワークシート。小学校、中学校で各見開き 2 ページ。(S. A.)
- ◆「コピーしてすぐ使えるワークシート：2月」『学校図書館』no. 676, 2007. 2, pp. 54-57.
- ◆「コピーしてすぐ使えるワークシート：3月」『学校図書館』no. 677, 2007. 3, pp. 68-71.
- ◆青木伸子「数学の授業による図書館ガイダンス」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, pp. 49-52.
- ◆茨城キリスト教学園中学校高等学校図書館部「学校図書館の小論文指導への支援」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, p. 81-84.

- ◆勝見浩代「オリエンテーションは図書館の入り口」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, p. 43-46.
- ◆金澤久美子「保護者に発信する図書館だより」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, p. 54-56.
- ◆高鷲忠美「『読書・調べる』習慣を確立しよう」『出版ニュース』2007. 4/上, 2007. 4, pp. 6-11.
- ◆対崎奈美子「各教科・領域で活用される学校図書館を目ざして」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, pp. 15-19.
[内容]
資料として「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」あり。
(S. A.)
- ◆都築和子「図書委員会からの情報発信」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, pp. 59-61.
- ◆寺島紀子「『明るく利用しやすくおもしろい図書館』を作る新年度のオリエンテーション」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, pp. 37-40.
- ◆成田康子「図書館報で利用者との相互理解を図る」『学校図書館』no. 678, 2007. 4, pp. 62-64.
- ◆【図書】山形県鶴岡市立朝陽第一小学校編『図書館へ行こう！ 図書館クイズ：知識と情報の宝庫=図書館活用術』国土社, 2007. 3, 82p.

【共通】

- ◆【図書】国際文化会館図書室編『デジタル時代の情報リテラシー教育 日本研究に関わる学術図書館を中心として』国際交流基金 日本図書館協会（発売）, 2006. 12, 86 p.

(5) 編集後記

第 65 号をお届けします。今号では、7 月に開催する第 10 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせを掲載しました。関心のある方はぜひご参加ください。多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

(春田)

(6) 利用教育委員会委員

(委員長)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

(委員)

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館
有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科
石川 敬史 : 工学院大学図書館
木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー
戸田 光昭 : 駿河台大学名誉教授
野末 俊比古 : 青山学院大学文学部
春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程
和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室
久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

< C U E > 利用教育委員会通信 第 65 号 (18 卷 1 号) 2007. 5. 16 発行

・バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)